

10月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I値の動き

28年10月のD Iは8指標中7指標が上昇。「景況」「売上高」「販売価格」「取引条件」「設備操業度」の5指標が2桁の大幅な上昇となった。「雇用人員」は横這いであった。

2. 県内中小企業の景気の現状

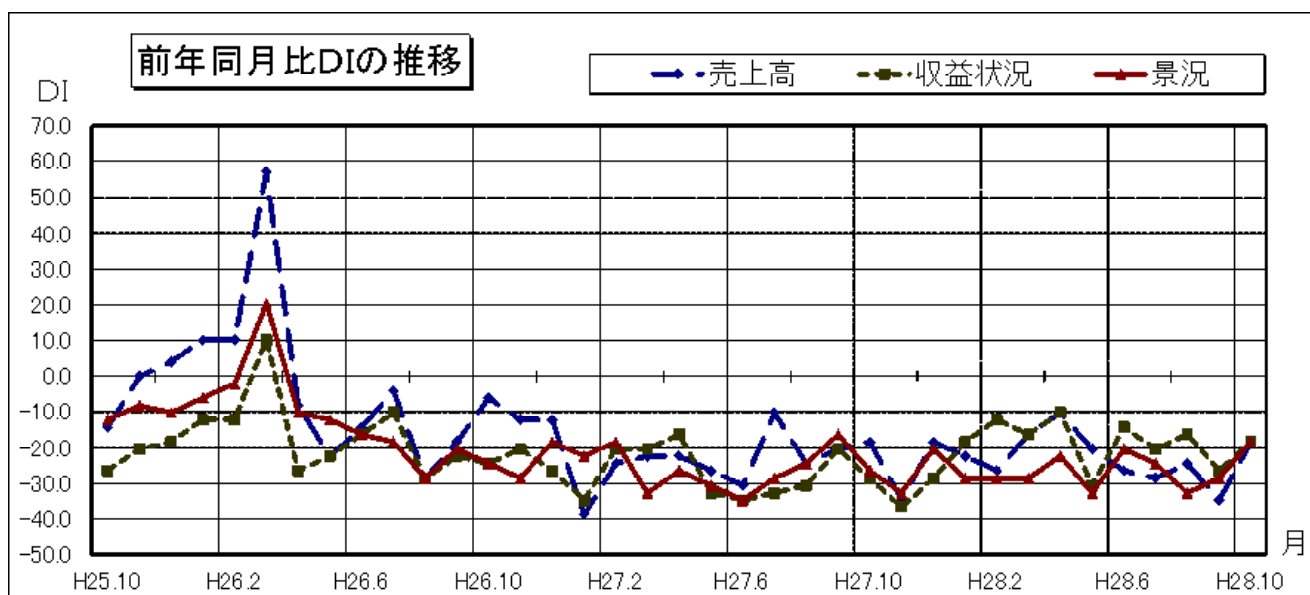
一部の業種では、原材料価格等の低下に伴う収益面が好調を維持している。また、秋需本番に入り需要や業況が上向き傾向にあるといった声が、前月より多く寄せられ、県内中小企業の景気底入れを示唆する明るい動きが現れている。

しかし、一方では原材料費の値下げが未だ地方に浸透してこない事や、鳥取県中部地震の影響による需要の減少、依然とてくすぶる労働力不足問題に悩まされているといった声が寄せられた。新興国景気の減速、米国大統領選の結果が今後の国内経済に与える影響が懸念されていることから、県内中小企業の景況については、依然先行きに慎重な見方が続く。

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

	H27 10月	11月	12月	H28 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	増減
景況	-26.5	-32.7	-20.4	-28.6	-28.6	-28.6	-22.4	-32.7	-20.4	-24.5	-32.7	-28.6	-18.4	10.2
売上高	-18.4	-34.7	-18.4	-22.4	-26.5	-16.3	-10.2	-20.4	-26.5	-28.6	-24.5	-34.7	-18.4	16.3
収益状況	-28.6	-36.7	-28.6	-18.4	-12.2	-16.3	-10.2	-30.6	-14.3	-20.4	-16.3	-26.5	-18.4	8.1
販売価格	0.0	-2.0	4.1	0.0	4.1	8.2	4.1	-10.2	-10.2	2.0	-8.2	-6.1	6.1	12.2
取引条件	-2.0	-6.1	-2.0	-2.0	-8.2	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-10.2	-6.1	-8.2	4.1	12.3
資金繰り	-10.2	-18.4	-8.2	-22.4	-12.2	-12.2	-8.2	-6.1	-10.2	-10.2	-10.2	-14.3	-6.1	8.2
設備操業度	-11.1	-16.7	-11.1	-22.2	-27.8	-27.8	-22.2	-33.3	-11.1	-38.9	-33.3	-22.2	-5.6	16.6
雇用人員	-12.2	-12.2	-14.3	-16.3	-22.4	-24.5	-24.5	-18.4	-20.4	-22.4	-16.3	-16.3	-16.3	0.0

※D I値…好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌

味噌の生産量は小幅ながら増加。出荷量は横這いで推移した。主原料の外国産米の輸入価格は低下しており、収益面ではプラスとなっている。「御膳みそ」も生産量は増加、出荷量は横這いで推移となり、味噌全体と同じ動向となった。

2. 菓子

売上高不変。収益状況不変。地域の会合などでは、業種に偏りはあるものの以前より忙しくなってきたという声が聞かれるようになってきた。

景気の状態に変化が出てきたのかなと感じる。今後、現在のマーケットの即したセミナーの開催や新しい市場開拓が急務である。

<木材・木製品>

3. 木材

原木丸太供給量にやや不足感があり、手当買いの流れが出てきている。価格は強含みであるものの、対前年比売上は減少基調で推移している。

また、木材需要も良い動きが見られるものの、売れ行きは悪く、価格低迷の状況は変わっていない。原木高、製品安の状況で経営は厳しく、秋需本番の中先行き不透明感は依然として強く感じる。

4. 木材

業況に全く変化なし。しかし、リフォーム（改築）などの工事が木材住宅のみならず、店舗及びマンションの内装改築に多様化しており、需要が徐々に増えつつある。

5. 製材

製材工場において、既存流通との格差により繁忙工場と閑散工場の明暗がある。プレカット工場においては、フル操業が続いている。

<印刷>

6. 印刷

10月はイベント関係が好調なもの、従来からの印刷物の減少で売上高増加には直結していない。また、円高による原材料費の値下げも地方には浸透してこない。これから始まる年末需要に対して、早くから積極的にアプローチし、印刷市場を刺激していかなければならない。

7. 印刷

対前年同月比では、全般的に横這いである。例年9月半ば以降動きが活発になるが、今年は10月に入り少し業況が好転してきたように思う。

しかしながら、業況好転の原因は具体的には見えていないので、長期的に続くかは疑問である。

<窯業・土石製品>

8. 生コン

10月も昨年同月と比べて出荷量は減少した。地元地区の公共工事が一段と減少し、厳しい状態が続いている。

<鉄鋼・金属>

9. 鉄 鋼

業況に大きな動きはなく、売上高の減少や設備操業度の低下も見受けられ、全体的に停滞気味で推移している。

依然として景気に対する先行き不透明感が強く、今後の景気動向が注視される。

10. ステンレス

売上高不変。収益状況不変。国内外ともに、景気回復感の少ない先行き不透明な状況が続く中、アメリカ合衆国大統領選の結果が為替をはじめ、今後どのように日本経済へ影響するのか状況を注視したい。

<一般機器>

11. 機械金属

売上高や収益状況の改善に繋がるような大きな変化は見られない。中国経済の衰退や国内経済の横這い状態が続き、将来に対する先行き不透明感が依然として強い。また、雇用情勢の回復により、中小企業への人手不足が懸念される。

【非製造業】

<卸売業>

12. 食糧卸

米価上昇が原価高騰の原因となっており、利益を圧迫している。

<小売業>

13. 繊維卸

売上高増加。収益状況不変。生産調整の為、産地卸では自社で持つ在庫が減少している。そのため、実需の時期でも流通に製品が少ない状態が続いているので、簡単に売上を作る事が難しくなっている。

14. ショッピングセンター

昨対比はスーパー100%（食品100%、衣料101%）、専門店98%であった。店舗全体では昨対比99%という結果であった。専門店では引き続き食料品店と飲食店が好調を維持している。装身具や文具品などの身の回り品の店舗は依然として売上に苦戦している。また、新規店舗の誘致に頭を抱えている。

15. プロパンガス

これからガスの需要期に入るので、顧客に湯沸かし器や石油ストーブ等の燃焼器具の安全な使い方を周知し、売上高増加に期待を寄せたい。

16. 電気機器

家電業界の景況としては、底堅い買い替え需要に支えられて横這い状態であった。

17. 畳小売業

仕事量は安定的に推移している。新築工事は、現場で仕上げ作業をする人手が足りず、対応に頭を抱えている。

<商店街>

18. 徳島市

売上高増加。収益状況不変。秋商戦の最盛期であるが、専門店では物産店などのイベントを開催したものの、前半は残暑の影響で客足が鈍かった。

しかし、後半は天候に恵まれた為、客足が戻っており前半の不調を取り戻せた。

19. 阿南市

前年同月比特に変化は見られない。

<サービス業>

20. 土木建築業

10月の業務量は落ち着いており、業況は不変であった。雇用人員を増加させたが、欠員が出た際の補充に頭を抱えている。

21. 自動車整備

平成28年10月の登録車の新車登録は対前年比+11.4%、中古車は+2.1%、合計では+9.1%。一方、軽自動車の新車登録は対前年比-1.0%、中古車-5.4%、合計は-2.1%であった。

登録車・軽自動車の登録合計は対前年比+4.0%と微増。普通車の新車販売台数の売上高が対前年比増加。また整備の収益状況（普通車）においても対前年比好転。軽自動車においては厳しい状況が続いている。

22. 旅行業

鳥取県中部地震によりキャンセルが相次ぐ等、業況はあまり良くない。

<建設業>

23. 建設業

公共工事の発注は、国の方針では上半期に発注率80%とのことであったが、大幅に遅れている。平準化発注・施工を是非ともお願いしたい。

24. 解体業

公共工事の発注が対前月比50%増加。民間戸建発注についても、対前年度比15%増加した。

25. 鉄骨・鉄筋工事業

対前月比あまり変わりはない。

26. 板金工事業

仕事量は順調に推移している。

27. 電気工事業

新設住宅口数は254件であり、対前年比91.0%と微減であった。

<運輸業>

28. 貨物運送業

一般貨物輸送は、取扱業種により異なるが、全般的に昨年度並みで推移している。

ただ、生鮮野菜は、夏の天候不順の影響で取扱量は大幅に減少した。

また、今月の軽油単価は対前月比平均で約3円弱上昇しており、今後の原油市場の状況が注視される。

29. 貨物運送業

売上高不変。収益状況不変。10月21日に発生した鳥取県中部地震では、徳島県から「緊急救援輸送に対する協定」に基づく輸送依頼を請け、ブルーシートや土嚢袋、レトルトカレーなどの緊急支援物資の輸送が行われた。

青果では、台風や雨の影響で作付けが遅れており、収穫に影響が出ている。